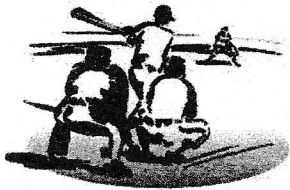


## 「補欠の主将、世界へ」

宇治弘晃 32回生（昭和55年3月卒）

新宿高校硬式野球部が一番甲子園に近づいたのは昭和54年ではなかったか。春の大会で都ベスト8になり「都立の星」としてメディアに取り上げられた。練習は週3回2時間半、フリーバッティングは一人5振り。私はこの年の主将だった。背番号は10、補欠である。夏の大会は準々決勝で強豪関東一高にサヨナラ負けしたが、ナイターの神宮球場でたくさんの応援をもらったことを今でも覚えている。



北海道大学に進み、本音十割建前なしの恵迪寮で5年間を過ごす頃には、海外の発展途上国で仕事をしたいと考えていた。初めての海外赴任は入社して6年目、会社ができたばかりのベトナムだった。味の素の海外での販売は独特だ。車に商品を積んで市場の一軒一軒に商品を売って陳列をし、代金を回収する発展途上国ならではの方法で、「行商」と呼んでいる。完全週休1日、毎日地元の営業マン同行し、独特の販売方法を身体に沁みこませていく。身体的にもしんどいが、来る日も来る日も基本動作を繰り返しているとだんだん飽きてくる。そこでぐっと堪えて毎日過ごすことに一番辛抱があるのである。この仕事への心構えは「気合、根性、忍耐」だ。英訳すると PATIENCE,

PERSEVERANCE AND PERSPIRATION. 気合（で我慢する）根性（で我慢する）忍耐（また忍耐）という語感だが、実際に毎日がそういう場面の連続なのである。

今では優良会社になっているベトナム味の素だが、当時はいつ潰れてもおおかしくない状態だった。とにかく売れない。配給経済に慣れた市場での現金販売は門前払い。雇った営業マンを鍛えても、少し給料の高い募集があるとすぐに転職してしまう。私は初代ハノイ営業所長だが、最初の営業所は倉庫の一角でエアコン・電話はおろか電気すらなく、夜はローソクの光でレポートを書いていた。そんな環境ではあったが少しずつ販路を拡げ、ベトナム全土に「味の素」を普及させていった。食事も地方出張の宿もローカル営業マンと一緒に。売れない市場では店主（オバサン）に手相占い。じっと手相を見て

「おばちゃん、20年前は貧乏だったろう」（戦争中だもん）

「旦那は酒飲みで博打好きだろう」（ベトナム人は全員そう）

「今の旦那の前に本当に好きな人がいたんじゃないの？」（誰だって思い当たることはある）

全部当たるからもうおばちゃんは目がトロンとしてこちらを信じて言う通りに買ってくれる。するとそれを見ていた隣のおばさんが「私のも見て」同じことを繰り返す。こんな率先垂範と質実剛健で販売の基礎を築いていった。

2度目の海外赴任はインド。南インドのチェンナイに進出したのだが誰も「味の素」を知らない。「最も優秀な国際会議の議長は、日本人に喋らせインド人を黙らせる」という至言があるが、とにかくインド人は早口でよく喋る。そのインド英語の一部をご紹介します。

“One second” 「黙れ、俺に喋らせろ」（相手の会話をさえぎる時）

“I complete it tomorrow” 「今日はやりません」（1年たっても tomorrow は来ない）

“Absolutely” “Definitely” 「確信持てません」  
“No problem” 「あれまあ」（意味のない間投詞）

これらの人々と一緒に仕事をするのは骨が折れるが工夫もした。誰も知らない商品を普及するために「キーメニュー」を探す。日々現地の食事を食べて「味の素」をかけてどう美味しくなるかを実感する。見つけ出したのがタマリンドベースのスープ「ラッサム」だった。「ラッサムに味の素」のキャッチフレーズで売上は飛躍的に伸びていった。

3度目の赴任地はエジプト。ゼロからの会社立ち上げだ。「アラブの春」直後の混乱期ですべてのものごとは停滞し、思い通りにいくことは何ひとつない。通訳に騙されてカイロ市内から遠く離れた場所に非常な高値でオフィスを借りさせられた。のちにこの通訳がそのオフィスビルに入居してきた。オーナーとグルだったのだろう。起用した顧問弁護士が詐欺師。様々な嫌がらせをされた挙句、この弁護士事務所の所員を当社の社会保険に登録され、保険料を騙し取られた。起用した輸入代理店が法外な金を要求して商品を引き渡さない。トラブルだらけの毎日は今でも続いている。遅刻が多くて試用期間でクビにしたセールスマンが事務所に催涙ガスを撒いた、不正を追及したセールスマンに「俺はもっと大きな不正をできたのにしなかったのだ You should thank me! 」と逆切れされた、エジプト人は怒りの沸点が低い。待遇に不満を持った従業員が社長室に殴り込みに来るということが2度あった。護衛のために手の届くところに孫の手を置いている。武器と思われてはいけないので時々背中をかいている。

後輩の皆さん、世界は異文化にあふれていて楽しいですよ。そして、たくさんの出会いのある人生って本当にいいものですよ。

（朝陽同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。）